



るまかの性聴「いいだ考」でなあは被い「う」とえ性事ううト関「りやむ身」に講師に山田照子氏をお招きし、「性に關する」等が付けることとができます。月九日(金)、全校生徒を対象に思春期教室を実施しました。内容は性的に思春期教室を実施します。内閣総理大臣の発表によると、この行をもつて被害者を守るために開催しました。講話終了後に保健委員長が「自分の気持ちは大切だと分かった。また、アイヌをたくさん見るのは無関係だよ」と感想を述べました。全員の意見を尊重する姿勢が印象的でした。



## 校長の独り言⑦

## 「叱る」について

数年前の話。その当時の勤務校で、採用間もない女教諭から相談を受けた。「私、叱ることがうまくできないんです。どんなふうに叱ればいいですか?」この相談に、「そうだな、例えばあなたが子どもの頃に叱られた中で、納得したり成長に繋がったと感じた叱り方を参考にしてはどうだろうか。」と返答。すると「実は私は…叱られたことがないんです。」「…」

「褒めて(認めて)育てる」という言葉の認知が広がり、「叱る」場面が圧倒的に減ってきた。もちろん「褒めて(認めて)育てる」ことは間違いなく、とても重要である。しかし「叱る」ことは必要ないのか?私は「必要である」と考えている。

私は「叱ることとは「何が間違っているかを教え、どうすればいいかを考えさせる」ことであると捉えている。その「叱り方」はとても大切で、人格を否定したり、傷つけたりしてはいけない。「人格」ではなく「行為」そのものを叱るのである。「あなたは悪くないが、その行為は間違っている。」という気持ちで毅然と叱るのである。

そうすることで、子どもたちは遅しく健全に、より良く成長していく信じている。

そんな私も今だに時折、妻に叱られ、成長を続けているのである…(苦笑)



## 自分自身を大切に!

## ～思春期教室～



西崎中学校  
校長 宮城 義隆

## ～ソフトテニス部の巻～

五月九日(金)にソフトテニス部を訪れ、部員25名先生方の試合を行いました。校長・将也先生ペアや咲羅先生・未来先生ペアなどのチームで子どもたちとの対戦を楽しみました。最後にキヤブテンの篠原江奈さんから夏季大会に向け、全力を尽くしたが、全ての決意表明がありました。



五月十二日(月)にバスケ部の部活動巡りを行いました。玲奈先生の華麗なシュートや宣言先生、二條先生の躍動感あふれるプレーに生徒も大喜びでした。後に女子のりいせさんは宮古大会への出場、男子の晨鷹さんは全力プレーをしたい、との熱い決意表明が活躍がありましたが、本番での活躍が楽しみです。



## ～男女バスケ部の巻～

すべての生徒・職員が安心・充実・挑戦している学校をめざして